

# ブドウ新品種‘あづましずく’の成熟特性

福島県樹試験場栽培部  
平成14年度試験研究成績書

## 1 部門名

果樹—ブドウ—品種  
分類コード 04—04—03000000

## 2 担当者

佐藤守、岡田初彦、小野勇治

## 3 要旨

‘あづましずく’の成熟特性を調査した。

- (1) ‘あづましずく’のベレーゾン期はジベレリン処理後30日の7月12日頃で、‘ヒムロッド’と同時期であった。ジベレリン処理‘巨峰’はこれより5日程度遅く7月17日頃であった。
- (2) ‘あづましずく’の果粒重の増加は、7月10日頃を境界として2つの生育ステージに区分できた。
- (3) ‘あづましずく’の特徴は果形指数の推移で最も顕著となった。すなわち7月10日から7月17日の間で明確な遷移期が認められた。このことから、‘あづましずく’では果形指数のモニタリングにより果粒肥大の転換期を把握できるものと推察された。
- (4) 糖酸比(糖度/滴定酸)は8月6日の‘あづましずく’が他品種より著しく高く、収穫終わりの8月14日でもなお‘ヒムロッド’との差異は大きかった。すなわち、‘あづましずく’ではベレーゾン期後約20日でほぼ収穫可能な糖酸比に達するものと推察された。
- (5) フルメット液剤加用により、‘あづましずく’は果粒肥大が1g以上促進されたが、糖度上昇と減酸速度は逆に低下し、ジベレリン単用と比べて熟期は7日～8日程度遅れた。

## 4 その他の資料等

なし